

増幸産業(株) 代表取締役社長

増田幸也

食品から医薬品、化粧品、工業素材まで「ダイヤモンド以外のあらゆる物質を超微粉碎する技術」は、新たな製品開発の牽引役として産業界の注目を集めている。この分野で国内シェアトップを走るのが従業員25人の増幸産業(株)（埼玉県川口市）。増田幸也さん（54歳）は「品質力は人質力（人育て）」と、従業員の成長を武器に「小さな世界メーカー」を目指す。

聞き手・文／経済ジャーナリスト 信太隆文

増田さんが「いまこれがわが社の世界戦略機」と胸を張るのが、2002年に開発した「ミクロマイスター」だ。毎分12000回というかつてない超高速回転を実現した精密粉碎機である。あらゆる物質をより細かく粉碎しようという同社の技術開発は、この高速回転へのあくなき

挑戦の歴史でもあった。

「高速回転はちよつとバランスを崩すと機械が暴れ出す。開発中はスイッチを入れるのが怖くて：みんな離れててくれて感じてしたね（笑）」

父親の恒男さん（故人）は、砥石を使ったすり潰し式超微粉碎技術ではパイオニア的な存在である。増田さんが生まれた56年当時、石臼で大豆をすり潰す豆腐製造機を製造していた恒男さんは、10年の歳月をかけて、砥石同士を密着させ高速回転させても割れない無気孔グラインダー（砥石）の開発に成功。これを使った超微粒摩砕機「スーパーマスコロイダー」を世に出した。これにより恒男さんは数々の発明賞、技術開発賞の栄誉を受け、会社は世間に広く認知されることになった。超微粉碎技術の用途はその後、コーンやさまざまな野菜、果物に拡大する。ちょうどその



超高速回転によりミクロン単位の精密カッティングを可能にした「ミクロマイスター」。コーンの粒を投入すれば一瞬にしてペースト状（コーンスープ）にできる。海外製品が独占していた国内市場でシェアを逆転し、今後は海外展開を狙う

時期に息子は大学を卒業して入社。

「工場に2、3年。その後は営業に移ったんですが、仕事が面白くて自分に合っていると思いました。発明家、開発者としての父親はもちろん尊敬しています。でも、とにかく新しいものをつくることに熱中するタイプで、QC（品質管理）のQの字も言ったことのない人だった」

中学時代から6畳部屋に20人もの友人が集まるなどリーダー的存在だった増田さんは、一人黙々と発明に没頭する父親とは違う自分を意識する。「品質管理はものづくりの基本」と信頼性の向上に力を注ぐ。父親もそんな息子の気質を見抜き、工程管理やメンテナンス、営業の一線を任

「超微粉碎技術」に世界が注目
 品質向上の基本戦略は人づくり

うになる。社長就任は39歳。

「あの頃、営業先には欧米製の一流の機械が揃っていた。性能では負けないのに精巧さや完成度ではまだ齒が立たないなあ」と。その悔しさが開発への情熱になっています」

父親の時代に毎分1500回転だった回転スピードは、3000、7000回転と進化し、息子の代でついに12000回転を達成。回転数の上昇は、そのまま粉碎する素材の広がりや精度のアップを示している。

増田さんはいま、得意の砥石に加えて刃物（ブレード）技術でも欧米に負けないレベルに達したと自信を覗かせる。砥石や刃物開発など技術的な「心臓部」以外は外注することで25人の少数精鋭体制に徹している。

また、社長就任の前年から「5S活動」も始めた。発明型から恒常的に開発力を保持できる体制への転換。そのための企業体力は従業員の成長が鍵になると考える。

従業員には常にこう問いかける。

「仕事はたまたま上手いくことがある。結果よりプロセスが肝心。一生懸命やったかどうか、誰がやっても同じじゃなくて、君がやったからその成果が出たのが大事。万が一ちがっていても、どこでも通用する

働く力を身に付けてほしい」

「5S活動」は、一昨年夏に従業員の提案で「仕組み」が加わり「新6S活動」（同社独自の取組み）に発展している。ユニークなのは名刺や会社案内に、ISO9001とともに取得したISO14001の文字上に取消線を引いて「紙・ゴミ・電気の節約運動に堕するなら、品質向上に徹するため9001を極めるべし」としていること。品質への強い思い入れがうかがえる。

「品質の追求に終わりはありません。そのために、従業員には全力投球しよう、製品は五感で見ろ、と言っています。人間はすごいセンサーですから、品質は人質。ヒトジチじやなくてジンシツ（笑）。だからこそ、ものづくりは人づくりなんです」

業務の効率化や最適化が進み、人もコストとして扱われる時代。そんな中であって、増田さんは経営戦略の中心に「人づくり」をきちんと掲げる経営者の一人と言えるだろう。

■増田幸也氏 プロフィール

1956（昭和31）年、埼玉県川口市生まれ。明星大学機械工学科卒業。'80年、増幸産業（株）入社。'95年、新工場竣工とともに社長就任。'99年、気流式粉碎機「セレンミラー」開発。'00年、ISO9001認証取得。'02年、顧客満足の追求と経営品質の向上活動を開始。同年、超精密カッティング機「マイクロマイスター」開発。'09年、多機能ミル「スーパーマスコロイダーα」開発。同年、新6S活動展開。休日はハーレーを駆ってツーリングを楽しみ、自ら作詞・作曲したCDも制作（非売）するなど多芸多趣味。



幕末期、大砲の鋳造で功績のあった川口の鋳物師、増田安次郎の気概は9代目の増田さんにも引き継がれている。会社入口には安次郎が鋳造した18ポンドカノン砲（大砲）のレプリカがある。写真は、同社の名を広く知らしめた「スーパーマスコロイダー」